

2017. 2. 6

防災環境商工委員会資料（最近の経済・雇用情勢について）

商工観光労働部

(1) 「月例経済報告」における基調判断（平成29年1月23日：内閣府）

- ・ 景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
- ・ 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

(2) 茨城県金融経済概況（平成29年1月11日：日本銀行水戸事務所）

- ・ 県内景気は緩やかに回復しつつある。すなわち、公共投資は横ばい圏内で推移しているものの、住宅投資は持ち直している。
- ・ また、個人消費は一部に弱さがみられるものの、雇用・所得環境が引き続き改善するもとの、基調的には底堅さを維持している。この間、生産はこのところ持ち直しつつある。
- ・ 12月企業短期経済観測調査結果（茨城県）をみると、2016年度の設備投資額は、前回調査から下方修正となるものの、全産業では前年を1割方上回る計画。
- ・ 先行きについては、経済対策に支えられて国内需要が増加基調をたどるもとの、海外経済の改善を背景として、緩やかながらも回復のテンポを強めていくとみられる。
- ・ なお、金融面をみると、預金、貸出ともに増加した。貸出約定平均金利は低下した。

【個人消費】 11月の百貨店・スーパー販売額は、身の回り品や雑貨の売れ行きが堅調であったものの、主力の冬物衣料がやや伸び悩んだほか、休日日数が少ない曜日構成もあって全体では4か月連続して前年を下回った。

12月は気温が高めの時期があったことから、主力の冬物衣料の動きが鈍かったものの、歳末商戦から初売りにかけての客足はますますであり、身の回り品や福袋の売れ行きは活発との声が聞かれている。

12月の乗用車新車登録台数は、軽自動車は4か月連続して前年を下回ったものの、普通・小型車が2か月連続して前年を上回ったため、全体では、2か月連続して前年を上回った。

最近の家電販売状況は、白物家電は引き続き持ち直しているほか、テレビや携帯電話もこのところ好調であり、家電販売全体として底堅く推移している。

県内の主要観光施設の入込み状況は、ひたち海浜公園（ひたちなか市）や大洗水族館（大洗町）、竜神大吊橋（常陸太田市）などが賑わいをみせるなど、引き続き持ち直しの動きが続いている。

【生産】 10月の鉱工業生産指数は、前月比（季節調整済）では、非鉄金属や化学等が低下した一方、はん用機械・生産用・業務用機械や鉄鋼等が上昇し、全体では5か月連続して上昇しているなど、このところ持ち直しつつある。なお、前年同月比（原指数）でも前年を上回っている。

【輸出】 化学や鉄鋼、生産用機械が前年を下回っていることから、全体では前年を下回った。

(3) 雇用情勢（平成29年1月31日：総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」）

（単位：％，万人）

		H28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
完全失業率（％） （季節調整値）		3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1
完全失業者数（万人） （原数値）		210	203	212	204	195	197	193
有効求人倍率 （季節調整値）	全国	1.37	1.37	1.37	1.38	1.40	1.41	1.43
	本県	1.28	1.28	1.25	1.26	1.26	1.28	1.29

※完全失業率と有効求人倍率の季節調整値は、毎年1月分結果公表時に、過去に遡って改訂

↑
1.29
正社員0.85
9求人倍率